

趣旨説明

「教育の接続」としての入試改革Ⅱ

～高校教育の指導と評価が変わる一高校・大学は入試と教育にどう向き合うか～

▶ 長谷川 豊（大学コンソーシアム京都高大連携推進室長／京都府立大学公共政策学部准教授）



皆さん、こんにちは。大学コンソーシアム京都高大連携推進室の室長を務めています、京都府立大学の長谷川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

（スライド1）今日、この第18回フォーラムの開催にあたり、趣旨説明を仰せつかっていますので、この間の高等学校の教育、そして大学の教育改革、入試の改革等につきまして、お話をさせていただきます。

（スライド2）本フォーラムの趣旨です。予測困難な新たな時代のことも含めて、決して後戻りすることがないであろうニューノーマルという新たな状況、ウィズコロナ、ポストコロナといった時代は、1年前には予想だにしていませんでした。このようなことも含めて、社会の大きな変化の中でどのように生き抜いていくのかという高校教育や大学教育のあり方が問われています。

高校では、令和4年度から年次進行で、新学習指導要領に基づく授業が実施、そこで示され

た「育成すべき資質・能力の3つの柱」に沿って「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価することになっています。他方、大学では、今年度から行われます、大学入学共通テスト、そして、明確な入学者受け入れの方針に基づいて、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するように大学入学者選抜を改善していく状況になっています。とりわけ強調される「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を、大学入学者選抜の中でどのように評価していくのかが大きく問われています。

（スライド3）簡単に経緯を確認しておきます。2014年の中教審答申を受けて、2015年、2016年と高大接続のあり方を問う報告・議論が行われてきました。「高大接続改革」と言われ、これらは高等学校教育、大学入学者選抜、そして大学教育の「三位一体」の改革として語られます。

（スライド4）一方、この間、小・中・高等学校の学習指導要領の改訂が行われ、そこでは「育成すべき資質・能力の3つの柱」である「生きて働く知識の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」、これらを子どもたち、次の世代に育成すべきと掲げ、そのためにどのようなカリキュラム、そして教育方法等を提示していくのかが問われました。この点について

は、第15回、第16回のフォーラム「いま育成すべき力は何かをともに考える―高等学校・大学の役割―」において追求してきたところです。

(スライド5) 大学入学者選抜改革については、昨年度の第17回フォーラム開催のころ、英語の4技能評価への民間検定・試験の活用の中止であったり、国語や数学の記述式問題の導入が取りやめになったりと、共通テストに関わって大きな変更がありました。また、今年の夏、個別選抜にも関わる、主体性等評価のツールである「JAPAN e-Portfolio」の運営許可が取り消されるなど、大きな改革が予定通りには進まず、少し早急ではなかったのかなどと問われたところです。

ただ一方で、これらの改革が全くなくなったわけではなく、その後「大学入試のあり方に関する検討会議」「大学入学者選抜における多面的な評価のあり方に関する協力者会議」などの会議が次々と立ち上げられ、かなり頻繁に会合が開かれ、検討されてきています。これまで進めてきたところを、もう一度、問い直し、さまざまな議論が出ていると思います。

とはいえ、新しい学習指導要領に基づく授業が、高校の場合は2022年度から始まり、2024年度(令和6年度)実施の入試にも反映される関係で、できるだけ早い議論、そして大学入学試験に関わる方針を示すとされています。

(スライド6) 大学入学者選抜の区分については「AO入試」が「総合型選抜」、「推薦入試」が「学校推薦型選抜」、「一般入試」が「一般選抜」という名称に変わりました。選抜にあたってさまざまな変更があり、入試を通じて、高校教育の成果をどのように大学教育につなげていくのかがより問われてきています。

(スライド7) 先ほど、申し上げましたように、今、文部科学省の検討会議や協力者会議、あるいは大学入試センターでも今後のあり方を巡って検討が進められています。いつまでも検討し続けることはなく、課題であった中身に

ついてしっかりと提示されてくるはずです。

(スライド8) 先日、私の大学で推薦入試が行われましたが「調査書」の様式が随分と変わりました。画面が少し小さく見えにくいですが、昨年度までの様式に比べ、かなりの項目が書き加えられており、担当者は一つ一つ確認していました。このように調査書の様式が大きく変わったことで、学校現場の先生方は、実際、記述等にかかなり悩まれているかと思われます。実施してみて、学校によって、先生によっての違いも随分と見られたところです。

(スライド9) 具体的に言いますと、昨年度の調査書から、赤い文字の部分ですが、より詳細に注意事項が書き加えられており、一人一人の生徒の活動内容を提示する、大学に伝えることを学校の先生方がされています。このようにして高校から大学へつなぐ形の調査書が出てきています。その形を高校側から受け取る大学側ではどのように評価するのでしょうか、またそれをしっかりと受け止める入試改革になっているのでしょうか。まだまだ検討途上、模索中だと言えると思います。

(スライド10) これらを踏まえ、今後、高校教育において、指導と学習評価をどのように改善していくのかが問われています。大学では、高校で育まれてきた資質・能力を大学入学者選抜でどのように評価して、大学教育につなげていくのか、が大きな課題になっています。

昨年度に引き続き『『教育の接続』としての入試改革』のⅡとして、今日はこの後、第1部にて京都と大阪の高校、そして千葉大学の先生をお招きして、各実践のご報告をいただきます。第2部では、6つの分科会を今日、明日に分かれて開催していきます。

例年にないオンライン方式による開催、2日間にわたるフォーラムとなりますが、どうか、全集中してご参加いただければ幸いです。

以上です。どうもありがとうございました。

スライド1

第18回高大連携教育フォーラム

「教育の接続」としての入試改革Ⅱ

～高校教育の指導と評価が変わる
～高校・大学は入試と教育にどう向き合うか～

趣旨説明

大学コンソーシアム京都 高大連携推進室
長谷川 豊(京都府立大学)

スライド2

本フォーラム趣旨(前半)

- ・予測困難な新たな時代に向けて、社会の変化を見据えた生きる力を育むために、高校教育や大学教育の変化が求められている。
- ・高校では、令和4年度から年次進行で実施される新学習指導要領で示された「育成すべき資質・能力の3つの柱」に沿って、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価することになる。
- ・大学では、大学入学共通テストの導入や明確な入学受け入れ方針に基づき、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するものと大学入学者選抜を改善していく必要がある。

スライド3

「高大接続改革」=三位一体の改革

2014中教審答申 2015高大接続改革実行プラン
2016高大接続システム改革会議「最終報告」

●国際化、情報化の急速な進展
↓
社会構造も急速に、かつ大きく変革。

●知識基盤社会のなかで、新たな価値を創造していく力を育てることが必要。

●社会で自立的に活動していくために必要な「学力の3要素」をバランスよく育むことが必要。

【学力の3要素】

① 知識・技能の確実な習得

② (①を基にした)

思考力、判断力、表現力

③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

学力の3要素を多面的・総合的に評価する

大学入学者選抜

高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革

高大接続改革

学力の3要素を育成する

高等学校教育 **大学教育**

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

『**社会に開かれた教育課程**』の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

(出典)大学入試のあり方に関する検討会議議(第18回)
R2.11.27【参考資料2】大学入学者選抜関連基礎資料集

スライド4

学習指導要領改訂の考え方 2016中教審答申 2018高校改訂

育力成す3つの資質・能力

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得 未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか 成果

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

『**社会に開かれた教育課程**』の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

第15&16回フォーラム「いま育成すべき力は何かをともに考える」

素材

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造化し、学習内容の確実な達成を図る。

何を学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力の育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

方法

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※創設科目については、単元単位での評価が大学入学者選抜で求められることには留意され、そのための評価方法を定める。授業計画の整備を含め、単元単位での評価方法を定める。

スライド5

大学入学者選抜改革 この間の動向

◆「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入試に転換
◆「大学入学共通テスト」2020年度開始 2024年度新学習指導要領対応

【これまで】

マークシート式問題のみ

英語「読む」「聞く」のみ
配点:筆記200点リスニング50点

学力の3要素が評価できていない入試
早期合格による高校生の学習意欲低下

→

記述式問題（国語・数学）の導入

4技能評価へ転換 民間の資格・検定試験活用

主体性等評価ツールの高大接続ポータルサイト「Japan e-Portfolio」運営許可取消

【2020年度～】

マークシート問題の工夫・改善
記述式問題は「大学入試のあり方」に関する検討会議の検討事項に

リーディング100点、リスニング100点の配点
英語4技能の評価は「大学入試のあり方」に関する検討会議の検討事項に

■総合型選抜(AO入試)・学校推薦型選抜(推薦入試)における、小論文、プレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、共通テスト等のうち、いずれかの活用を必修化

■調査書の記載内容を改善

■出願時期:総合型選抜は9月以降に合格発表時期:ルール化

■「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価は「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力会議」の検討課題に

第17回フォーラム「『教育の接続』としての入試改革」

スライド6

大学入学者選抜の3区分

○総合型選抜(AO入試)
(概要)

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接などを含むことによって、入学志願者の能力・適性や学校に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。

①入学志願者本人が記載する活動報告書、大学入学希望理由書及び学習計画書等を積極的に活用。

②入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。なお、高度な専門知識等が必要な職業分野に求められる人材育成を目的とする学部・学科等における選抜では、当該職業分野を目指すことに関する入学志願者の意欲・適性等を特に重視した評価・判定に留意。

③「見直しに係る予告」で示した評価方法等。又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれかを必ず活用。

※例えば、小論文、プレゼンテーション、口頭試問、面接、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等。

(時期)
出願期間は9月1日～(令和3年度は15日～)
結果発表は11月1日～

学力検査を課する場合の試験期日は2月1日～3月25日

○学校推薦型選抜(推薦入試)
(概要)

出身中学校長の推薦に基づき、推薦票を主な資料として判定する入試方法。この方法による場合は、以下の点に留意する。

①「見直しに係る予告」で示した評価方法等。又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれかを必ず活用。

②推薦書の中で、入学志願者本人の学習歴や活動歴を踏まえた学力の3要素に関する評価や、生徒の努力を要する点などその後の指導において特に配慮を要するものがあればその内容について記載を求める。

③専業人員は、学部等募集単位ごとの入学定員の5割を超えない範囲で定める。

※例えば、小論文、プレゼンテーション、口頭試問、面接、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等。

(時期)
出願期間は11月1日～
結果発表は12月1日～
(一般選抜の試験期日の10日前まで)

学力検査を課する場合の試験期日は2月1日～3月25日

○一般選抜(一般入試)
(概要)

調査票の内容、学力検査、小論文、入学志願者本人が記載する資料の他、エッセイ、面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション、各種大会やコンテストの記録、総合的な学習の時間の成果等に関する資料やその面談等により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法。

(時期)
学力検査を課する場合の試験期日は2月1日～3月25日
結果発表は～3月31日まで

(出典)大学入試のあり方に関する検討会議(第18回)
R2.11.27【参考資料2】大学入学者選抜関連基礎資料集

スライド7

●大学入試のあり方に関する検討会議(令和元年12月～)
検討事項 (1) 英語4技能評価のあり方 (2) 記述式出題のあり方 (3) 経済的な状況や居住地域、障害の有無等にかかわらず、安心して試験を受けられる配慮 (4) その他大学入試の望ましいあり方
※(4)の内容追加 ■ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試のあり方
■第1回大学入学共通テスト等の実施状況を踏まえて

●大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議(令和2年2月～)
➢「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する多面的な評価に関する具体的な内容や手法等の検討
検討事項 (1) 大学入学者選抜における多面的な評価の内容や手法に関する事項 (2) 調査書の在り方及び電子化手法に関する事項 (3) 調査書や志願者本人記載資料の活用及び大学への情報提供の在り方に関する事項 (4) その他審議が必要とされる事項

●大学入試センター 運営審議会「将来構想ワーキングチーム」設置(令和2年6月～)
記述式問題導入：採点上の課題(採点の体制、正確な採点)
英語4技能評価：実施上の課題(試験実施体制、採点上の課題)

スライド8

「調査書」の様式変更 大学入学者選抜実施要項
令和2年度 → 令和3年度

スライド9

「調査書」記入上の注意事項がより詳細に
「令和3年度大学入学者選抜実施要項について(通知)」令和2年6月19日

12「指導上参考となる諸事項」の欄には、指導要録の同欄の記載事項のうち、(1)～(6)については以下のとおり記載すること。なお、枠の大きさや文字の大きさは任意とする。

- (1) 各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における特徴等については、各教科・科目等に関する学習状況の様子や特徴(積極性など)を具体的に記載すること。
- (2) 行動の特徴、特技等については、(1)以外の学校内外における活動の状況や特徴(積極性など)を記載すること。
- (3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等については、部活動やボランティア活動等の具体的な取組内容、実施期間、その活動における特徴等を記載すること。
- (4) 取得資格、検定等については、民間や専門高校の校長会等が実施する資格・検定の内容、取得スコア、取得年次、取得時期等を記載すること。
- (5) 表彰・顕彰等の記録については、各種大会やコンクール等の内容や時期等について記載すること。特に、国際バカロレアなど国際通用性のある大学入学資格試験における成績や科学オリンピック等における成績等を記載することが望ましい。
- (6) その他、生徒が自ら関わってきた諸活動、生徒の成長の状況に関わる所見など、特に必要と認められる事項等について記入すること。(以下、省略)

スライド10

本フォーラム趣旨(続き)

- これらの状況を踏まえ、今後、高校教育においては指導と学習評価をどのように改善していくのか。
- また、大学では、高校で育まれてきた資質・能力を大学入学者選抜でどのように評価し、大学教育につなげていくのか。
- 昨年度に引き続き『教育の接続』としての入試改革に焦点をあてて、先進的な教育内容や学習方法、高大接続の取り組みの事例から、高校と大学が共に考える機会としたい。